

PFAS血液検査のご案内

病体生理研究所は2024年4月より、発がん物質として注目されている有機フッ素化合物(PFAS)の血液分析を開始しました。研究ではなく通常診療や健診を対象に、PFAS血液検査分析を実施するのは、国内では初めてのことです。血液検査から体内のPFAS蓄積量を知って、健康被害の予防に役立てましょう。

詳細は採血の医療機関様にお問合せ下さい
「検査～結果のイメージ」

検査項目	7項目のPFAS PFOS・PFOA・PFHxS・PFNA PFDA・PFUnA・N-MeFOSAA
料金	料金 ※医療機関様、自治体様の設定
実施	予約や外来、健診で 「PFASピーファス血液検査」とお伝え下さい
当日	受付⇒問診⇒採血⇒結果外来の予約
結果	予約日にご来院下さい ・医師の結果説明 ・検査フォロー ・腹部エコーや関連の血液検査などを行います ・PFASフリーな生活 「PFASガイドブック」

(財)東京保健会 病体生理研究所
環境発がん研究センター



病体生理研究所建物(上)
PFAS血中濃度分析装置(左)
※見学受入れ可能・要相談



病体生理研究所は、住民の皆様とともに
環境・汚染源対策や健康被害予防に取り組んでいます

- ①PFASの第一人者、小泉昭夫・京都大学名誉教授、当検査機関に着任
小泉名誉教授の指導の下、PFAS血液検査分析の機器導入、検査プロセス結果数値を含む精度管理、専門検査技師の養成を行い、2024年4月～、PFAS血液検査分析を開始しました。
- ②医療機関様以外に自治体様からも血液検査の依頼を受け、分析を実施しております。
- ③アスベスト検診18万件実施
2000年代初頭より、アスベストが原因とされる中皮腫の早期発見のため、東京土建組合様・国保組合様と共同実施。血液検査実施機関として社会貢献しました。
- ④第三者評価を取得し、医療機関、健診センターから厚い信頼
2019年12月に(財)日本適合性認定協会(JAB)の臨床検査室認定(ISO15189)を取得し、安定した検査プロセスと精度管理に努めています。
- ⑤民医連の検査機関として、地域住民と共に、安心して住み続けられるまちづくり
PFAS問題では、単に検査分析するだけでなく市民の会学習会への講師活動や参加、国や自治体への要請、国会での省庁レクチャー参加など、住民の皆様と共に、汚染源対策や健康被害予防対策を求めています。

自治体からのご相談をお受けしています

※料金等は別途、見積要相談。 ☎03(3956)4101(代表)

PFAS血液検査のおすすめ

Q1：なぜ、血液検査分析を始めたのですか？

A1：多摩地域で、全国各地でPFAS汚染が明らかになり、PFASが健康被害をもたらす発がん物質として注目されています。
「体内のPFAS値を知りたい」「健康被害を予防したい」という住民皆様の強い要望を受けて、専用機器を導入し検査分析を開始しました。

Q2：PFASは、健康にどのような影響を及ぼしますか？

A2：PFAS研究が進んでいる欧州や米国によると、腎臓癌や精巣癌、乳癌、甲状腺疾患、潰瘍性大腸炎、脂質異常、出産関連で低出生体重児や妊娠高血圧症などの発症に影響していると言われています。

Q3：血液検査でわかることは何でしょうか？

A3：血液検査では体内のPFAS蓄積量を知ることができます。
PFASは環境中で分解されにくく、水や食品などを通して体内に蓄積されます。健診と同様に定期的に検査を受けることで、体内のPFASが減少しているかを判断できます。

Q4：検査後は、どうしたらよいのでしょうか？

A4：医療機関様では、結果を外来などで説明しフォローが必要な場合、腹部エコーや血液検査を保険診療で行うとのことなので、ご安心下さい。東京の社会医療法人社団・健生会が作成した「PFASガイドブック」をもとに生活上のアドバイスも行われています。

Q5：子どもは、血液検査を受けられますか？

A5：お子さんの体内汚染を心配される声を沢山頂いています。
米国やカナダでは1歳～、欧州や韓国では3歳～検査の対象です。現在対応している医療機関様では3歳から検査をしています。

Q6：高齢者に検査は必要ですか？

A6：だれもが「健康で安心して暮したい」と願っています。
年齢に関係なく、定期的な健診と同じように血液検査をおすすめします。一緒に健康被害を予防しましょう。

「トピックス」

国内初、岡山県吉備中央町は、2024年11月25日から 公費で血液検査をスタートしました。

また、千葉県鎌ヶ谷市も血液検査の費用助成を決めました！

「有機フッ素化合物PFAS分析報告書」サンプル

有機フッ素化合物PFAS分析報告書

お問い合わせ番号 70002

施設名 病体生理研究所

担当医 ビョウタイ ハナコ

氏名 ビョウタイ タロウ

生年月日 1955年06月26日 年齢 68歳 性別 男性

採取日 2024年03月25日

受付日 2024年03月27日

分析日 2024年03月27日

材料:血清

検査項目	分析値 (単位:ng/mL)
PFOS [ペルフルオロオクタンスルホン酸]	1.1
PFOA [ペルフルオロオクタン酸]	1.2
PFHxS [ペルフルオロヘキサンスルホン酸]	1.3
PFNA [ペルフルオロノナン酸]	1.4
PFDA [ペルフルオロデカン酸]	1.5
PFUnA [ペルフルオロウンデカン酸]	1.6
N-MeFOSAA [N-メチルペルフルオロオクタンスルホンアミド酢酸]	1.7
検査項目	合計値
Total 4 PFAS (PFOS + PFOA + PFHxS + PFNA)	5.0
Total 7 PFAS (PFOS + PFOA + PFHxS + PFNA + PFDA + PFUnA + N-MeFOSAA)	9.8

《血中濃度の基準》

*アメリカ：全米科学工学医学アカデミー

7種類のPFASの合計値

2 ng/mL未満：健康影響はない。

2 ng/mL以上～2.0 ng/mL未満：感受性の高い集団(妊婦など)では悪影響の可能性。

2.0 ng/mL以上：脂質代謝異常の検査、甲状腺ホルモン検査、腎がんの徴候や症状の確認、
結腸がんや潰瘍性大腸炎の症状の評価を勧める。

*ドイツ：ヒト・バイオモニタリング委員会が提唱する指針値「HBM II(超えると、健康影響があると
考えられるレベル)」

PFOS：2.0 ng/mL PFOA：1.0 ng/mL

分析施設 一般財団法人東京保健会

病体生理研究所 環境がん研究センター

分析責任者

センター長：小泉昭夫(京都大学名誉教授)